文庫めぐり (26)

静嘉堂文庫

［来歴］ 静嘉堂文庫の創始者は三菱財閥二代目の岩崎弥之助（一八五一～一九〇八）である。文庫ははじめ駿河台の岩崎邸内にあり、重野安繹が管理していたが、陸心源旧蔵書購入（一九〇六）をきっかけに、後継の岩崎小弥太によって一九一〇年、高輪邸に新築移転。関東大震災後、一九二四年に現在地の玉川河畔紅葉丘に文庫を新築。研究者に公開した。一九四〇年には財団法人・静嘉堂となり、戦後一九四八年には国立国会図書館の支部館となったが、一九七〇年、これを離れて財団法人に復帰した。静嘉堂は弥之助の堂号で、『詩経』大雅・既醉篇の句から採ったもの。

青木信寅・中村敬宇・宮島藤吉・楢原陳政・田中頼庸・小越幸介・山田以文・色川三中・竹添光鴻・島田重礼・陸心源・木内重四郎・松井簡治・大槻如電・諸橋轍次らの旧蔵書が収められている（蒐集順）。その和漢古典籍の数はおよそ二〇万冊。別に岩崎家の蒐集になる古美術品五千点もあり、一九九二年には静嘉堂百周年を記念して静嘉堂美術館も新設された。

［概要］ 静嘉堂収蔵品には国宝七点、重要文化財八二点、重要美術品七九点が含まれ、この種の機関としては抜群の質量を誇る。漢籍に関しては陸心源旧蔵書四万余冊が静嘉堂文庫の中心的存在である。陸心源（一八三四～一八九四）は浙江帰安の人で、清朝の挙人。文武に通じた官吏で、経済力にも富み、善本蒐集に財を投じ、清末の四大蔵書家の一人に数えられる人物である。没後十余年、息子の陸樹藩によって売却、岩崎弥之助の購求するところとなった。

陸心源蒐書の特徴は古版本（宋元版）にある。医書としては南宋刊『外台秘要方』（重要文化財）と南宋刊『新雕孫真人千金方』が白眉。天壌間無二の孤本として中国伝統医学研究上はかり知れない価値がある。宋刊本の『傷寒総病論』『史載之方』『類証活人書』『鶏峰普済方』『普済本事方』、金刊本の『張子和医書』、元刊本の『素問要旨論』『晞范句解八十一難経』『傷寒百証歌』『傷寒直格』『証類大観本草』『本草衍義』『済生抜粋方』『風科集験名方』『恵民御薬院方』『医方大成論』なども特筆すべき。

［蔵書目録］ 医薬関係書は漢籍を含め『静嘉堂文庫国書分類目録』（一九二九）に収録。続編・追補類もある。

［所在地・利用法］ 〒一五七―〇〇七六　東京都世田谷区岡本二―二三―一　☎〇三―三七〇〇―二二五〇。限定公開（大学生以上の学術研究者、要紹介、予約が必要）。土曜・日曜・月曜・祝日は休館。開館時間は一〇時～一六時二〇分。詳細は図書係へ。

（小曽戸　洋）